2016/10/02　コロッケフェスティバル in 龍ヶ崎

龍ヶ崎市商店街で，「第４回全国コロッケフェスティバル in 龍ヶ崎」が開かれました。

茨城県内のみならず全国から，コロッケ日本一を目指し，30 以上の参加がありました。このフェスティバルは，コロッケによる街おこしに取り組む龍ヶ崎市，静岡県三島市，富山県高岡市が，持ち回りで開催。龍ヶ崎市での開催は２０１３年の第１回以来２回目。

茨城新聞社は商店街に移動編集局を設置し，本校３年田村朱音さんが竜ヶ崎一高２年男子生徒とともに１日記者に挑戦しました。

田村さんは，龍ヶ崎市内で人気の「まいんコロッケ」を取材。熱心に聞き取ったことをメモしていました。

その後，聞き取ったことを記事にまとめ，茨城新聞社に送りました。

以下が，新聞記事です。

茨城新聞　2016年(平成28年)10月3日　月曜日

熱いコロッケの闘い

第4回 全国コロッケフェスティバル in 龍ケ崎 移動編集局

早食い出場者に拍手

「うちのコロッケが1番」。龍ケ崎市で2日、「第4回全国コロッケフェスティバルin龍ケ崎」が開かれた。にぎわう会場は、"日本一"を目指すコロッケ店の威勢のいい声が響き、揚げたての香ばしい匂いに包まれた。コロッケの早食いやライブなどイベントも多彩で、会場は終日、盛り上がりを見せた。

山盛りのコロッケを夢中になって食べる出場者＝龍ケ崎市のにぎわい広場

"食の猛者"たちが、10個にどれだけのコロッケを食べられたかを競う早食い選手権が、会場の一角にあるにぎわい広場で行われた。出場した20～30代の男女10人は、次々と豪快にコロッケを平らげ、見物人から大きな拍手を浴びていた。

用意されたのは、大皿いっぱいに盛られた2・5㌔のコロッケ。出場者はコロッケを口いっぱいに入れたり、水で一気に流し込んだりするなど、独自の攻略法を駆使しながら、時間内により多く食べようと、夢中でコロッケにかぶりついていた。

男性の部優勝は、1・5㌔を食べた龍ケ崎市、製造業、宮本俊一さん(40)。女性の部は1・6㌔を食べた龍ケ崎市姫宮町、パート従業員、石山きよみさん(57)が優勝した。

宮本さんは「消化が早い柔らかいコロッケから食べるように作戦を立てた。地元で優勝できて、とてもうれしい」。石山さんは「目標の20個を1回で25個を食べることができた。3年前のフェスでは2位だったので、優勝して雪辱を果たすことができた」と喜びを語った。

まいんコロッケ盛況

地元龍ケ崎の商工会女性部有志らによる「まいんコロッケ」もブースを出し、ローズポークメンチやライスクリームコロッケ（ともに税込み150円）など、6種類のコロッケを計2千個販売。行列ができるにぎわいだった。

まいんコロッケは、2000年に、吉田京子代表(74)らが、「中学生の部活帰りに、1個5円で買ったコロッケの味が忘れられなかった」と、町おこしで作り始め、今年で17年目を迎えた。普段は毎日の火曜日から木曜日に、開発した10種類程度のコロッケを、商店街の一角にある「チャレンジ工房とらすご」で販売している。最年長の桜井理子さん(80)は、「コロッケを作ったり売ったりするのが若さの秘訣」と話した。

吉田代表は5年ぶりの茨城開催に「前回よりも人が増えたんじゃないか」と手応えを感じた様子で話し、「もともとは地域おこしで始まったイベントが、今や全国規模になった。もっと多くの地域が参加してくれるよう働き掛けていきたい」と話した。

コロッケを販売する「まいんコロッケ」＝龍ケ崎市の本町商店街通り

▽後援　第4回全国コロッケフェスティバルin龍ケ崎実行委員会、龍ケ崎商工会、龍ケ崎市

市民記者　一日体験

質問の難しさ実感

龍ケ崎市佐貫町、竜ケ崎南高３年、田村朱音さん(17)　慣れないことばかりで大変でした。質問することを考えるのが一番難しかったです。普段なかなかできないことなので、すごく勉強になりました。これから、社会に出たときに今日のことが生かせればいいなと思いました。